

## 音楽と出会う瞬間

岡田 暁宜（愛知教育大学保健環境センター）

毎日、私は自動車で通勤している。通勤の際、車の中でしばしばFMラジオをつける。すると車のFMラジオから、懐かしい歌や音楽が流れてくることがある。そんな時、私はとても懐かしい気持ちになって、その歌や音楽を聴いていた頃の自分の気持ちを思い出す。私の中であの頃の記憶や体験が甦るのである。それはまさに止まっていた時間が動き出す瞬間である。心の中で様々な感情が表出されるのがよく分かる。それは自分自身の心の叫びを感じる瞬間であり、無意識の欲動（drive）が一時的に解放される瞬間なのである。私はそんな瞬間を心地よく感じる。

テレビ番組で“懐メロ”（懐かしのメロディ）の特集がある。年末になると人間のノスタルジアが高まるために、懐メロ番組の視聴率が上がるのだらう。懐メロ番組に根強い人気があるのは、人間は懐メロを聴くことで、ある種の心地よさを感じるからだらう。人間は“哀”を求めているのである。Klein, M. が発見した抑うつポジションの心性である。人間は未来に向かって現在を生きようとする時、しばしば過去を希求するのかも知れない。

過去の記憶の想起に歌や音楽を用いるのが音楽療法である。人間の記憶や体験は、歌や音楽と連結して心の中に保存されているので、音楽を通じて過去の記憶を想起することが可能なのかも知れない。そして人間には誰しも自分の原体験となるような歌や音楽があるに違いない。それは原光景や原風景などにあたる原音楽（primal music）のようなものだらう。そんな研究に関心がある。

残りの誌面で歌や音楽によって過去の記憶の想起が起こる瞬間について、若干の考察を述べたい。

私が車の中で何げなくつけたFMラジオから流れてきた歌や音楽は、私にとって全く予想していなかったことだった。私が強い感情の表出を引き起こしたのは、このように音楽との再会が全くの偶然だったからではないか。私はこの「偶然性」が特に重要であるように思う。以前、

朝の通勤の車の中で偶々FMラジオから流れてきた音楽に感動して、その夜、自宅に戻ってから、その曲の入っているCDを探し出して、再生して聴いてみたことがある。その場合にも確かに懐かしさを感じたり、ある種の感動はあるのだが、なぜかその朝にFMラジオで偶然に聴いた時に比べると感動が少ない気がする。それはなぜなのだろう。繰り返したことで、感情表出がやや鈍麻したからだらうか。それだけではないだらう。

意識的・意図的に曲を選んでCDプレーヤーで再生した時には、流れる曲は既に心の中で予想されているので、流れる曲に対して開かれる心の部分は既に想定された範囲内の部分となる。これに対して、FMラジオから偶然に流れる曲は想定された範囲外のことである。前者の音楽との再会は、能動的な体験であり、後者の音楽との再会は、受動的な体験である。おそらく受動的な体験の中でこそ無意識の欲動の解放が起きるのである。

既に知っているものを探して見つけることには新鮮さは少ない。だが偶然に何かを見つけることには新鮮さがある。人間同士の出会いでも、「奇遇ですね」という偶然の出来事に対して人間は運命を感じるものである。FMラジオから流れる音楽には新鮮さがあり、CDの再生は新鮮さがないからだらう。人はある種の新鮮さを求めているのかも知れない。

精神療法においても、非意図的なこと、偶然性に起きることが大きな治療転機となることは決して珍しくない。また治療者の言葉についてもセリフを読むような言葉（台本にあるような言葉）には治療効果はなく、「生」の言葉にこそ治療効果の可能性がある。それは偶然性の中にこそ、創造性が存在しているからではないだらうか。

ラジオ放送	CD再生
偶然性（想定外） 受動的傾聴 無意識的体験 非意図的体験	必然性（想定内） 能動的傾聴 意識的体験 意図的体験